

第37回 奈良透析学術総会が

2013年2月3日(日)12時より

奈良県文化会館 2階にて開催されます。

当院からはプラザ透析センター 渡邊美智子 師長が

座長として出席され、

プラザ透析センター 高藤節子 主任、

プラザ透析センター 市原恵美子 看護師

が学術発表されますので、ご紹介いたします。

「奈良県医師会透析部会」

第 37 回奈良透析学術総会

プログラム 予稿集

平成 25 年 2 月 3 日（日） 12 時開始

奈良県文化会館・2F

第 1 会場：小ホール

第 2 会場：集会室 A・B

奈良市登大路町 6 - 2

TEL 0742-23-8921

会 長

公益財団法人

天理よろづ相談所病院

金子 嘉志

一般演題 III (看護師 I)

12:20 ~12:44 (集会室 A・B)

座長 渡邊 美智子 (康仁会 メディカルプラザ薬師寺西の京)

14. PD+HD併用療法を受ける患者の心理
～血液浄化センターで求められる看護介入を検討する～
公益財団法人 天理よろづ相談所病院 血液浄化センター
豊田 恵子(N) 他

15. 「混合病棟におけるスタッフ・PD 担当ナースが実施している PD 看護業務に関する検討」
公益財団法人 天理よろづ相談所病院 齊藤 夕紀(N) 他

16. SMAP 法と CAPD 3 段階法の導入時の比較検討
康仁会 西の京病院 プラザ透析センター 高藤 節子(N) 他

領域 (その他)

SMAP 法と CAPD 3 段階法の導入時の比較検討

康仁会 西の京病院 プラザ透析センター

○高藤節子 (N), 栗野麻帆, 谷 好美, 安井暁子, 渡邊美智子

【目的】

SMAP 法は、従来法に比べて導入時期の調整や入院期間が短縮される利点がある。しかし、当院で導入した SMAP 法のペースは、出口部が安定するまで入院することを定めているため、早期に社会復帰を希望する患者には負担があった。CAPD 3 段階法導入では、導入時に出口部が安定しているため、導入時指導を入院から外来に変更できる。今回、SMAP 法と CAPD 3 段階法導入の違いと効果について報告する。

【対象】

SMAP 法 15 名 (男性 11 名、女性 4 名) 平均年齢 58.0 歳 (45~87 歳)。

CAPD 3 段階法導入 9 名 (男性 8 名、女性 1 名) 平均年齢 55.6 歳 (32~70 歳)。

【方法】

SMAP 法と CAPD 3 段階法導入の指導時間の測定と、出口部の状態を出口部評価スコアで導入から 12 ヶ月間評価した。

【結果】

SMAP 法の平均指導時間は 45 時間で、CAPD 3 段階法導入は 25 時間であった。出口部の状態は、SMAP 法は導入 7 か月に排膿を認める出口部感染が 1 例、平均スコア 1.4 点、CAPD 3 段階法導入は平均 0.8 点であった。

また、発赤、痂皮などのトラブルは SMAP 法より CAPD 3 段階法導入の方が少なかった。

【結語】

CAPD 3 段階法導入は、出口部のトラブルを減少させ、指導時間も短縮できる導入法である。

(Key Words) CAPD 3 段階法導入, 指導時間, 出口部トラブル

(代表連絡者) 高藤節子 (たかとう せつこ)

(所属住所) 奈良県奈良市七条町 95-1

(電話) 0742-35-7680

(ファックス) 0742-35-7684

(E-mail) p_touseki@nishinokyo.or.jp

領域 (その他)

透析患者の足の爪評価と非糖尿病患者への爪切り指導

康仁会 西の京病院 ブラザ透析センター

○市原恵美子 (N), 谷 好美, 栗野麻帆, 梅村憲司, 西山晋輔,
高藤節子, 渡邊美智子

【目的】

透析患者は、閉塞性動脈硬化症を合併し、四肢切断に至ることがあるので、糖尿病患者には、フットケアが実施されている。当院でも糖尿病患者の足評価を定期的に行っているが、非糖尿病患者に対しては足の評価はしていなかった。そこで、非糖尿病患者に対して足に関するアンケート調査と足の爪評価を実施し、非糖尿病患者 76 名中、陥入爪の 15 症例に爪切り指導を試みたので報告する。

【対象と方法】

- 1) 透析患者 109 名中、非糖尿病群 76 名と糖尿病群 33 名の爪状態を観察し、両群に対してアンケート調査を実施した。
- 2) 非糖尿病患者 76 名 (男 48 名・女 28 名) 中、陥入爪患者 15 名 (男 6 名・女 9 名) に爪切り指導を行った。

【まとめ】

- 1) 爪の状態は、非糖尿病群は爪白癬 29%、陥入爪 20% に対し、糖尿病群は爪白癬 61%、陥入爪 18% であった。爪白癬の割合は糖尿病群に多かった。
- 2) アンケート結果は、両群とも足への関心は 91% 以上であった。糖尿病群は、痺れや冷感、傷の有無、皮膚の色、爪が伸びていないかの順であった。非糖尿病群は、爪が伸びていないか、痺れや冷感、傷の有無、皮膚の色、無回答の順であった。
- 3) 足の爪切り指導は、15 名中、6 名が爪の肥厚や変形、足の爪が見えにくいなどの理由で自分では爪切りができなかったが、9 名はできるようになった。

【結語】

非糖尿病患者にも爪病変があることがわかった。その内、非糖尿病群の陥入爪の爪切り指導で、正しく爪切りができるようになった症例と、正しく切れない症例はできない理由が明らかになった。